

下荒洞門の地形について

木村 珪三・齊藤和郎

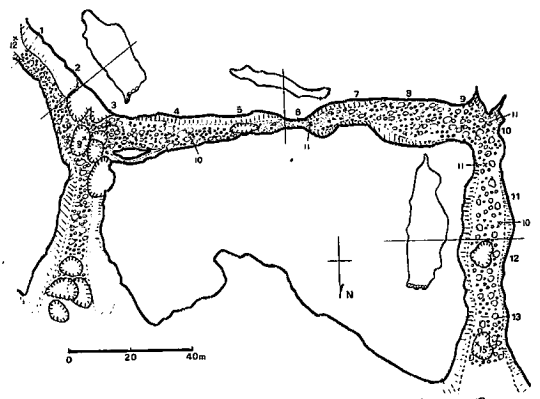
1970年7月29日から4日間、調査研究グループに加わり、下荒洞門の地形について調べた。洞の南壁面から、西の入口の西壁面にかけてロープを通し、20mごとに眼じるしをつけて、それを地図作りの基準とした。また、この目盛を生物調査のステーションに利用した。深さはダイビング用の深度計を用いて計った。

計測した結果は洞長250m前後深さは、東南の入口部で12m、西の入口で15m、洞門が最も狭くなるst6付近でも11mと深い。

底質は、東西の入口付近と、三叉路に巨石がある他は、人頭大からひとかゝえ程度の石がしきつめられている。洞門が最も狭くなる部分では、底が砂である。この部分は、アクアラングをつけて通過すると身動きがとれなくなる危険がある。

潮流はたえず東南の入口から入って、西の出口（入口）

に向って流れている。すなわち、地図上に示したステーション・ナンバーにそって流れている。洞の狭くなる部分では、流れが最も急である。



下荒洞門の地形、壁にそう数字はステーション・ナンバー（20m間隔）。×印の数字は水深（m）